

令和6年10月22日  
(2024年)

保護者の皆様

吹田市立第六中学校  
校長 須藤 渉

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として、「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査結果の分析

#### ●国語・・・平均正答率は全国値をやや上回った。

「記述式」の問題形式において正答率が低く、話題や展開を捉えながら自分の考えをまとめることが課題となった。

《各内容における成果と課題、指導改善のポイント》

『知識及び技能』

言語の特徴や使い方に関する事項

- ・平均正答率は全国値を上回る結果であった。文脈に即して漢字を正しく書く力、表現の技法について理解する力が付いてきている。

情報の扱い方に関する事項

- ・「具体と抽象など情報と情報との関係について理解している」の出題において全国値をやや下回る結果であった。

### 我が国の言語文化に関する事項

- ・「行書の特徴を理解しているかどうかをみる」の出題において、平均正答率は全国値を上回る結果であった。

### 『思考力・判断力・表現力等』

#### 読むこと

- ・「読むこと」の問題において全国平均を上回っている。「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」「短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」の出題で全国値を上回った。

#### 話すこと、聞くこと、書くこと

- ・「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる」問題においては全国値を下回っていた。「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」問題では全国値を上回っていた。

### 国語における成果と今後の改善点について

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」の問題において正答率が全国値を上回るまたはやや上回る結果であった。日々の授業の中で定期的な漢字テストや語句の意味調べの反復を継続してきたことの成果が見られた。

「情報の扱い方に関する事項」においては課題が見られた。これまでも実践してきたが、文章から読み取った情報を比較・分類する練習を一層取り入れていく。

- 数学**・・・平均正答率において全国値を上回った。確率以外での問題で全国値を上回る結果となった。全体的に無回答率も低く、立体や1次関数は無回答率が0になっている。

### 《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

#### 数と式

- ・「知識・技能」の観点での問題はどれも全国平均値を上回る結果だった。記述式の問題は全国平均値を上回っているものの、前提の確認が不十分のために正答率は低くなっている。

#### 図形

- ・「知識・技能」についての無回答率はかなり低くなっている。正答率は全国平均値を上回っている。合同の証明においては全国値を上回っているが他の回答と見比べると無回答率が高く記述に課題がある。

## 関数

- ・「知識・技能」を問われるような問題は無回答率が低くなっている。全国平均値を上回っているが、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明するような問題が全国平均値と同様に低くなっている。

## データの活用

- ・データの分布からそれぞれのデータの比較をするような問題の正答率は全国値を上回っている。確率の「知識・技能」においては全国平均値とほぼ同じとなった。

## 数学における成果と今後の改善点について

日々の授業の中で、本校の研究テーマでもある【主体的に表現する授業】の成果が表れている。また、十分な演習を行っていることも要因の一つである。どの問題においても高い正答率になっている。

記述式の問題においては、全国の平均正答率よりも高くなっているものの、今後も生徒間での解説や解答の手法を記述させたりする時間を多くとっていく必要がある。

## 2 質問紙調査の結果について

### 【基本的生活習慣について】

朝食は、85%以上の生徒が毎日とっている。起床時間は90%以上、就寝時間は80%以上の生徒が決まった時間に生活できていると回答している。

### 【規範意識、自己有用感など】

「いじめは、どんな理由があってもいけない」についての肯定的な回答は、95%を超えるものであった。「自分には、よいところがある」に関しての肯定的な回答は85%以上、「将来の夢や目標を持っている」に関しての肯定的な回答は、全国値をやや上回った。

### 【学習習慣、学習環境について】

学習習慣の面では、自分で学び方を工夫する割合や、平日に2時間以上学習する生徒の割合は全国値を上回ったが「全く勉強しない」「1時間より少ない」という回答もあった。土日に2時間以上学習する生徒の割合は全国値を下回った。「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」は全国値とほぼ同じ、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んだ」は全国値をやや上回る、「学習した内容の分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」は全国値を上回るという結果になった。

### 【1・2年生時の授業について】

「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」は全国値とほぼ同じ、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」「自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた」はすべての項目で全国値を上回った。

## 3 今後の取り組み

- 基本的な生活習慣（朝食を毎日食べている、決まった時間に起床、就寝）については、各家庭のご協力や学校での5分前登校、チャイム着席などの成果で多くの生徒が確立できている。基本的な生活習慣の確立は、生徒のより良い発育・発達には欠かせない事項であることから、その意義を伝えながら引き続き学校全体での取り組みを進めていく。
- 学習面においては、全国平均とほぼ同じか上回る結果であったので、基礎的な部分の習得はできつつあると捉えている。各教科のアンケートにおいても、「学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」と回答した生徒は全国値より大幅に上回っていた。このことから、これからも知識・技能と、生活の結びつきや思考力・判断力・表現力の相互の関連付けを図り、生徒の学習意欲向上にむけて授業改善を実践していく。
- 学習時間において、平日に「2時間以上学習する」という回答が約38%ある一方で、「全く勉強しない」「1時間より少ない」という回答が約37%だった。学習習慣の定着につながる働きかけを普段の教科指導や日常の関わりの中で実践していく。各ご家庭でもお声がけをお願いします。
- 自己有用感に関するアンケート結果において、「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒が全国をやや上回る結果となった。これまでの生徒同士や教職員との関係の中で“仲間に自分の考えを表現する”ことや“生徒の話を傾聴する姿勢（対話する）”を意識して取り組んできた成果が出ていると感じている。特に“仲間に自分の考えを表現する”部分については、授業の中でも意識的に取り組んでいる内容である。今後も継続して生徒の自己有用感につなげていきたい。